

～泥んこかまわず～

10月4日(火)、庄内町家根合の家根合揚水機場で魚の学習会が行われました。  
庄内町立余目第一小学校の4年生49名が調整池で泥んこになりながら魚を捕まえました。

調整池の魚はどこからやってくるのかな？ 田植え体験で学んだことを復習しながら、生息している魚の種類や生態系について学びました。(答え:最上川と立谷沢川)



どんな魚がいるかな？



捕ったらバケツに移します



最上川土地改良区 後藤さんが種類と生態を説明



今年、ウグイ、コイ、ギンブナ、ワカサギなどの魚類やドブガイなどの貝類 合わせて20種類を捕まえました。久しぶりにアユ、スナヤツメも確認できました。

捕まえた魚は、もともと地域に棲んでいるもの、ほかの地域からきたもの、絶滅危惧種、特定外来生物に分類され、その特徴について学び、観察しました。



先生から子どもたちに「なかなかできない経験をさせてもらったので、お家で今日のことを話してね。」とお話いただきました。

子どもたちの生き生きした笑顔を見ることができて、関わった大人もいい経験をさせてもらっています。

～基幹水利施設保全管理技術向上研修会～

降雨でなかなか進まなかった庄内平野の稲刈り作業。10月中旬になり、ようやく終わりがみえてきました。



鶴岡市羽黒町仙道

今年の役目を終えた揚水機場では、その働きを労うように、清掃点検作業が始まりました。農業用水を水田に確実に届けるためには、適時的確な点検管理が欠かせません。

山形県土地改良区体制強化事業における「基幹水利施設保全管理技術向上研修会」が県土地連主催で開催され、最上・庄内管内の土地改良区と県の担当者30名が実地研修を行いました。



ポンプ分解点検作業の段取り説明



慎重に上ケーシング取り外し



カップリングの振れ計測



ケーシングパッキン取付け



上ケーシング取付け ボルトセット

ポンプ内部の羽根車や摺動部は、運転時間に比例して摩耗が進行していきます。ポンプの分解点検は、摩耗状態を点検計測する目的のほかにも、許容値と比較することで部品の交換や整備補修の時期を判断するために実施しています。

施設の細部まで把握しておくことが、適時的確な管理につながっていく…土地改良区の皆さんの日々の努力が来春の用水確保につながっています。

## ～2017冬号春号発行に向けて～

10月14日(金)、今年度2回目となる編集会議が県庁で行われました。

『norari農楽里』は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、すでに参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場を提供する職員手づくりの情報誌です。

今日は、『norari』の趣旨とターゲットを再認識して、記事を作っていくことを確認し、冬号春号の内容の絞り込みを行いました。



冬号記事作成のため、庄内の編集委員7名はこれから管内各地に取材に伺います。地域を元気にしようと発行している『norari』。地域で元気に活動する皆さんの話を伺うことで、『norari』編集委員が元気をもらっている気がします。

『norari』2016秋号はまもなく発行の予定です。お楽しみに。

～つるおか大産業まつり～

10月15日(土)、16日(日)の両日、鶴岡市小真木原公園において、「つるおか大産業まつり」が開催されました。  
天気にも恵まれ、大盛況の2日間。当課と関連のあるブースもにぎわっていました。



福栄地域協議会『福の里』 地域特産物を販売



郷清水の湧水で育った越沢柳田米



東北農政局あさひ農地保全事業所のブース



こんにゃくを使って地すべりのメカニズムを説明してくれました

事業の役割や意義を知っていただき、身近に感じていただきたいと思います。

～雪囲いで豪雪に備える～

10月中旬、山々の木々も色づき始めました。



10月17日(月)、庄内赤川土地改良区と因幡堰土地改良区が共同管理する大鳥ダムの雪囲い作業に同行しました。



出発前 サルと遭遇



片道8kmがんばろう

大鳥ダムは、約10,000haの受益を補水する基幹水利施設の1つです。

毎年6月から10月までの5か月間、月に1度、最寄りの道路から片道3時間の道のりを徒歩で行き来して点検・管理を行っています。

ここ鶴岡市大鳥の積雪量は5mを超えるため、毎年10月の点検時には、嚴重な囲いをして、施設を雪から守ります。



ゲート手すりの取り外し



格納庫の雪囲いをして終了



作業を無事終えて、ひと安心

大鳥はひと足早い冬を迎えます。

～各地で秋を味わう～

管内各地で今年の収穫に感謝する催しが行われています。

10月21日(金)、庄内赤川土地改良区において収穫感謝祭が行われました。臼と杵を使ったもちつき。最近はなかなか体験できなくなりました。息を合せて、リズムよく、おいし～いもちがつけました。



臼と杵



よいしょー、よいしょー



絶品のあんこもちとつゆもち

10月23日(日)、月山高原活性化センターにおいて月山高原収穫祭が行われました。

春に植えたサツマイモを収穫し、月山麓でとれた作物を使った地産地消芋煮をいただきました。

大きなサツマイモがどんどん掘れて、子どもたちは大喜び。さっそく焼き芋にしてみました。



たくさん掘れてみんな一生懸命



きれいに洗ってアルミホイルで巻く



焼き芋♪焼き芋♪30分程かかります



おいしそう～



新米と地産地消芋煮を参加者70名でいただきました

心も身体も温まる楽しい1日となりました。

今週末も各地で収穫祭が目白押し。地域のを地域みんなで味わい、その恵みに感謝しましょう。

～酒田市農林水産まつり～

10月23日(日)、酒田市中町中和会商店街周辺において、「酒田市 農林水産まつり」が開催されました。

曇って肌寒い天気でしたが、多くの人でにぎわいました。

今年も最上川下流右岸地区土地改良施設管理体制整備推進協議会が農業用水の多面的機能PRを行いました。



PRブースの展示状況



ぬりえをしてみよう



田んぼに水がとどくまでの仕組み



クイズに挑戦



解説付きの答えせをしてくださいました

事業の役割や意義を知っていただき、身近に感じていただく。地道なPR活動が実を結ぶ・・・そう期待して、NN・REIKOも日々更新しています。

～歴史的施設をめぐる職場研修～

10月24日(月)、歴史的農業用施設の成り立ちを知り、現在の管理方法や今後の施設のあり方を考えるきっかけにすることを目的に、職場研修を行いました。



修験道として知られる羽黒山。羽黒山中興の祖 天宥(てんゆう)は、25歳で羽黒山別当に就任。山道の石段等の整備や須賀の滝(修験者や参拝者が身を清める)の造園などは天宥の実績。

当時の水呑沢から羽黒山までおよそ8kmを農業用水路として導いた「天宥堰(てんゆうぜき)」。その末流が須賀の滝となっているため、出羽三山神社でもその管理の一部を担っているとのこと。



天宥堰の歴史と羽黒山の関わりについて学びました



掛樋区間



素掘区間

その後、9月1日～31日までの1か月、熊本県派遣業務にあたった職員の業務報告会を行いました。



忙しい毎日を送っていると、目の前の業務に精一杯で全体像やものごとを広くとらえることができなくなりがちです。

忙しい時こそ、一度立ち止まって、日々の業務を振り返ってみましょう。



## ～越沢新そば祭り～

11月5日(土)、6日(日)の両日、越沢自治会が運営するまよのやかたにおいて、『越沢新そば祭り』が開催されました。

越沢は、旧温海町の山間部にあり、やまがたの棚田20選のひとつ。

摩耶山(標高1019m)からの豊富な湧水 郷清水(ごうしみず)が棚田を潤しています。

5日は450名のお客様でにぎわったと聞いたので、早朝に出かけました。

8時55分、開店5分前なのに、もうこの人出。



そば祭りの受付 豪華賞品の抽選付き



特産品もたくさんそろっています



打ちたてゆでたて



もう満席になりました

お吸い物、天ぷら、ぜんまいの小鉢、あつみかぶ漬け、笹巻が付いた、特別メニュー。全部いただいて、おなかいっぱいです。



箸置きづくり、折り紙のコーナー できたよ

越沢そば祭りは、越沢のみなさんひとりひとりのおもてなしの心あふれる催しです。お土産に生そば、あつみかぶ漬け、とちもち、里いも・・・たくさん買って帰ってきました。

～一霞かぶ祭り～

焼畑あつみかぶ原産の地 一霞(ひとかすみ)。

11月6日(日)、一霞公民館をメイン会場に一霞かぶ祭りが開催されました。

生かぶが買えるのはここだけとあって、毎年多くの方々が10kg単位で大量購入するこのイベント。10時の開場を前に、もうこの人出です。

一霞地域では、あつみかぶの付加価値向上を目指し、昭和59年、「一霞あつみかぶ生産組合」を組織し、かぶ加工場の建設して漬物販売を始めました。かぶ祭りは、そのPRを目的に平成12年から開催しています。



整理券を受け取り、順番が来たら購入できる 一輪車で車まで運んでくれるサービス

地域の農地のおよそ半分は、中山間地域等直接支払制度の対象となっており、高齢化も相まって、その保全是大きな課題です。

その課題を克服すべく、今年1月農業法人を設立。地域の農地維持保全、機械の効率的な利用によるコスト縮減、雇用の確保により、地域を活性化させようと動き出しました。



中山間集落協定の活動を 紹介するパネル展示もありました。



農業法人 パックライス 販売開始

みなさんのいきいきした姿に元気をもらったいい1日でした。

～樹で渋を抜く～

庄内の秋に収穫される果物のひとつに、庄内柿があります。10月上旬から、早生品種の収穫が始まりました。

庄内柿はブランド名で、主な品種は「平核無(ひらたねなし)」という種無し柿。平核無は渋柿のため、アルコールや炭酸ガスなどで渋抜きをしたうえで、ようやく食べることができます。

11月16日、鶴岡市朝日地域の佐藤泉三さんの柿畑では、『柿しぐれ』の収穫が行われていました。



収穫作業



分別作業

柿しぐれは、平核無が樹になった状態で、固形アルコールを入れたポリ袋をかけて渋を抜く、樹上脱渋(じゅじょうだつじゅう)という方法で、渋抜きをしたものです。柿しぐれになれるのは、2Lから3Lの大きな果実のみ。大きく育てるための摘蕾、摘果は大切な作業です。

佐藤さんの話では、柿農家の減少により、柿畑の受委託が進んでいるとのこと。

柿畑も、庄内平野の水田同様、農地・地域を守っていきたい、という農家の方々の頑張りで維持されていることを実感しました。私たちが整備した栗山地区一般農道が柿の管理作業、集出荷に活用され、皆さんの営農経費節減に、より効果を発揮できればと考えています。



収穫を待つ『柿しぐれ』



切るとこんな感じ

樹上脱渋によりつくられた果実は、褐斑(ゴマ)が入り、サクサクとした独特の食感です。ぜひ一度、お試しください。

### ～スッキリ晴れました～

山形県と秋田県にまたがる鳥海山。  
今年10月10日に初冠雪が確認されました。  
初冠雪から1か月が経過し、朝晩の冷え込みを感じるようになると、鳥海山の雪はすそ野に向かって伸びてきます。  
今日は、この季節では珍しくスッキリと晴れました。



酒田市飛鳥では、平田赤ねぎが収穫を待っていました。  
平田赤ねぎは、旧平田町の伝統野菜。根元部分が鮮やかな紅色で生のままではキリッとした辛味、火を通すと柔らかな甘みを感じるのが特徴です。



N.N.REIKOバックナンバーvol.289 伝統野菜『平田赤ねぎ』もご覧ください。  
販売店の情報が載っています！

～NPO法人 家根合生態系保全活動センター～

山形県では、地球環境と地域環境の保全と創造に関して、特に顕著な功績のあった個人又は団体(グループ、NPO、学校など)を顕彰する「環境やまがた大賞」事業を実施しています。

今回、NPO法人 家根合生態系保全活動センターが大賞を受賞するという栄誉に輝き、11月19日山形国際交流プラザ(ビッグウイング)においてその表彰式が行われました。



表彰を受ける佐藤理事長



これまでの活動を紹介



メダカの学習の様子を説明

この度の受賞は、ほ場整備事業の着手をきっかけに、余目一小と地域が一体となって環境保全活動や農業体験を実施してきたこと、これに加えて、メダカを放流した水田で栽培した「めだかの里米」の販売やそれを醸造して地元酒蔵がメダカライス純米酒として販売し、地域産業に寄与していること等、これまでの活動が認められたものです。

県は、ほ場整備事業はもとより、環境保全にどう向き合うか、事業着手のころから、お付き合いしてきました。これからも、今後の活動に更に力が入る地域の方々を、N.N.REIKOで紹介し、応援していきたいと思ひます。

～山の芋収穫感謝祭～

11月23日(水)、庄内町北月山荘において「山の芋収穫感謝祭」が開催されました。

「山の芋」とはヤマイモの一種で、自然薯と同じ仲間です。



庄内町立谷沢地区では、昨年1人の方が試験栽培を始め、今年は7名の方が栽培に取り組んでいます。合わせて10a程の面積で約1トンの収穫があり、翌年植える種芋以外は大阪方面に出荷されました。



山の芋栽培(9月15日の状況)

山の芋は荒れた土地でも育ちやすく、滋養強壯の効果もあり漢方薬などにも使われる作物で、関西の老舗料亭や和菓子屋では高級食材として調理されます。すり下ろすと、自然薯を超えて餅のような粘り気。味は上品でなめらか。



山の芋づくし料理 どれもおいしくいただきました

収穫感謝祭は、第一部「山の芋奉納祭」、第二部「山の芋研究会」、第三部「山の芋収穫感謝祭」の三部構成で、生産者の皆さんのほかに、原田町長らも参加しました。

山の芋で地域おこしを！という兼古支配人や生産者の方々の熱い想いが伝わってくる感謝祭となりました。

事務局として頑張ってくれた地域おこし協力隊の竹嶋さん、栗原さん、お疲れ様でした。



地域おこし協力隊 竹嶋さん



お酒入り、盛り上がっています

～水土里ネットいなば～

11月27日(日)、鶴岡市藤島地区地域活動センターにおいて、水土里ネットいなば主催の田んぼの学校『収穫感謝祭』が行われました。

今年度も田植えから始まった水土里ネットいなば『田んぼの学校』。本日の収穫感謝祭が、今年度最後のイベントとなります。

今回も70名以上の参加者が、そば打ち体験やクイズを楽しみました。



2班に分かれて そば打ち体験(1回目)



水まわしの良し悪しで仕上がりが決まる



薄〜く延ばして



力いっぱい延ばす



太さ、さまざま



ゆでたて、いただきま〜す



恒例クイズ大会 答えは？

恒例のクイズ大会は、そばに関するクイズ、農業経営学クイズ、と難問ぞろい。県の水稲新品種『山形112号』の特性も勉強しました。

農業経営学クイズでは、穀物、露地もの、施設園芸の各作物毎に、労働時間、収益、労働対価を比較。労働対価が高くても、収穫期間が短いと収益は上がりません。当たり前のようですが、具体的に数値で比較すると、現実味を帯びてきました。

2014年全国生産農業所得統計によると農業総産出額に占める生産農業所得の割合(所得率;農家の手元に残る割合)は、30%。

農地、地域を守るために、汗を流している農家のみなさん、施設を守る改良区の方々に改めて感謝・・・。

参加した皆さん、また来年度、元気にお会いしましょう！

### ～ふるさとに戻ってきたよ～

12月8日(木)、牛渡川(うしわたりがわ)へ行ってきました。

庄内平野の北部 遊佐町を流れる牛渡川は、鳥海山の伏流水だけを水源とする清流で、毎年10月～12月に鮭が遡上してきます。

ふ化には、温度が一定で、酸素を多く含んだ新鮮な水が不可欠。遊佐町は湧水が豊富なので、鮭にとって恵まれた環境といえます。



帰ってきたよ



採卵した鮭の寒風干し

今年は、帰ってくる鮭の数が少ないとのこと。

どうしたのかな～。

帰ってくる鮭の量にバラツキがあるからこそ、地道に行われているふ化事業の意義を感じます。



～2016秋号の配信が始まりました～

元気な農山漁村を作っていきたい、農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい・・・『農楽里norari』は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、既に参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する“職員手作り”の情報誌です。

紙媒体では、11月初めに発行していましたが、12月15日、山形県HPにようやくアップされました。

<http://www.pref.yamagata.jp/purpose/koho/kohoshi/6140017norari.html>



今回は、地域おこし協力隊の特集です。

地域おこし協力隊は、都会から過疎地域などの条件不利地に移住する人を自治体が委嘱する制度で、都会で育ってきた隊員の新たな視点を取り入れた地域おこしが期待されています。

各地域で、多種多様に地域と関わる隊員の方々の活動取材しました。

庄内地域のネタとしては、水土里ウォークで天保堰(てんぼうぜき)も取り上げています。

ぜひご覧ください。

～冬の労災をなくそう～

早いもので、12月も中旬に突入。

年末までの工期となっている建設工事は、完成に向けて大詰めを迎えています。



山寺ため池 転落防止柵の改修工事

例年、12月～3月までは、凍結や積雪による転倒災害や交通事故等、冬季特有の労働災害が多発しています(山形労働局 平成28年度「冬の労災をなくそう運動」実施要領より)。

あわただしくなる年末年始。

だからこそ、日頃の作業状況を見直し、心にゆとりを持った安全作業に努めましょう。

～ソバを打って食べよう～

毎年恒例の親睦会行事『ソバ打ち会』を12月22日(木)に行いました。  
もちろん、そば粉は鳥海南麓団地で採れた常陸秋ソバ(品種:ひたちあきそば)を使  
わせていただきました。



正しい計量がおいしいそばを打つ決め手



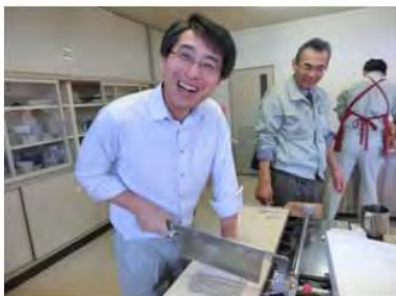
水廻しからこね作業へ



延ばし



だいふ延ばしました



上手に切れた～



約30人前を準備



職人のような仕上がり



暮坪棚田米も一緒にいただきました



打ちたてをおなかいっぱいいただきました

酒田市平田地域にある鳥海南麓山楯団地には、広大なそば畑が広がっています。鳥海南麓地区は、平成元年～平成9年に実施された国営農地開発事業により造成されたものです。



造成された団地の一部では、地形勾配が大きいため降雨による土壌流亡や強粘土質土壌による排水不良で耕作条件が厳しいところも。土壌の熟畑化を図るため、農家の皆さんは営農努力による土づくりを行っています。それには多大な資材と労力がかかっています。

そのような現状を踏まえ、国営事業実施中から行ってきた土づくり支援に加え、国の営農調査事業や県・酒田市が連携した営農支援事業を実施してきました。

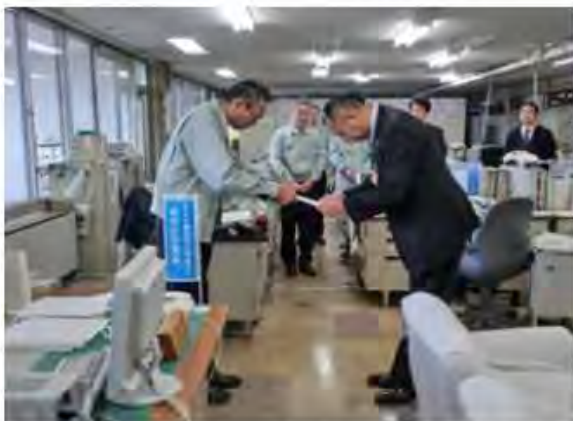
このような支援のみならず、当課でも鳥海南麓団地支援を！と始めたのが農村計画課親睦会のソバ打ち会です。

工事の実施により、事業効果を発揮することはもちろんですが、その後、地域を維持していくためにどれだけの支援ができるのか、県としてどう関わっていけるか・・・私たちの仕事への向きあい方も再考する、一年の締めくくり行事となりました。

～山形県からお手伝い②～

当課 佐藤勇輝が9月1日から1か月間、復旧支援のため熊本へ行っていたことは、NN. REIKOで皆さまにお知らせしておりましたが、今度は佐々木朗が1月1日付け辞令で熊本へ派遣されることとなりました。

勤務は1月4日～31日までの1か月。現在、災害復旧工事の公告が行われ、工事着工が迫る現地で業務にあたります。



当課職員が見守るなか派遣辞令交付



役に立てるよう頑張ります！

1か月交代の派遣は、県から1名ずつ、来年3月まで続く予定です。  
これまでの経験を生かしつつ、さらに多くの経験を積んで、大きくなって帰ってきてね。  
健闘を祈る！

～来年もよろしく願います～

12月28日(水)御用納め、今年の業務、終了です。

今年もいろいろなことがありましたね。

振り返ってみて、充実していたな、と思えば、いい1年だったといえるのではないで  
しょうか。

来年も皆さまにとって、充実した実りのある一年となりますように。



3代目 NN. REIKOをご覧いただき、ありがとうございました。

来年も、庄内の農業農村の旬な情報を新鮮なままにお届けすることをモットーにして  
まいります。引き続き、よろしく願い致します。

謹賀新年！

～本年もよろしくお祈りします～

2017年(平成29年)が静かに幕を開けました。

1月5日小寒。寒さが一段と厳しくなります。今年は何のくらいの雪が降るでしょうか。



昨年2月の鶴岡市たらのき代の積雪状況

降雪量は少ないに越したことはない、とはいえ庄内平野の水田を潤すだけの水を確保するためには、ある程度の積雪は必要です。

これから本格的な降積雪期を迎えます。

防災態勢の一層の強化を図りつつ、災害が発生しない程度の雪を期待して。

本年も皆さまにとって、実りある一年となりますように。

3代目 NN. REIKOを引き続き、よろしくお祈り致します。

着任しました

## ～熊本にて業務始まる～

当課から熊本県へ派遣された佐々木から、1月4日無事着任したとの連絡が入りました。

熊本は例年以上の暖かさ。農地整備課の皆さんにも温かく迎えられ、熊本での業務が始まりました。



宇城地域振興局農地整備課の皆さんと

熊本県では、年末に鳥インフルエンザが発生。農地整備課の皆さんはその対応にもあたられたとのこと。たいへんな1年だったと思います。



復旧を待つ農道

本県派遣職員は、農道2件の復旧に携わります。  
知識と経験を活かして、熊本県の復旧に向けて頑張ります。



～出羽三山山伏によるご祈祷～



1月12日、出羽三山神社山伏さまより、新年のご祈祷をいただきました。



出羽三山は、羽黒山、月山、湯殿山の総称。

羽黒山は日本有数の修験道の聖地で、羽黒修験道は、三山の特征から現在(羽黒山)、過去(月山)、未来(湯殿山)とみたてられ、生きながら若々しい生命(いのち)をよみがえらせることができるという信仰は、江戸時代に現在過去未来を巡る『生まれかわりの旅』となって広がりました。

「自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』～樹齢300年を超える杉並木にまつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山～」として、県が申請し、昨年4月に日本遺産に認定されています。

(詳しくは、下記山形県HP「日本遺産の認定について」をご覧ください)

[http://www.pref.yamagata.jp/ou/kyoiku/700015/nihonisan/dewasanzan\\_nintei.html](http://www.pref.yamagata.jp/ou/kyoiku/700015/nihonisan/dewasanzan_nintei.html)

現状を認識し、過去に学び、未来へつなぐ・・・新しい年を迎え、気持ちも新たに。  
庄内地域にとって、“いい仕事”ができるよう、農村計画課一同、努力していきたいと思います。

何をするにも、健康第一。  
本年も健康で過ごせますように。

### ～受賞の喜びを関係者で分かち合う～



1月15日、「環境やまがた大賞」受賞報告並びに祝賀会が庄内町立余目第一公民館にて開催されました。

庄内町長をはじめ、家根合地域の皆さん、庄内町立余目第一小学校歴代の校長先生、最上川土地改良区、全農山形、JA庄内たがわ、県など、これまで家根合地域の活動に関わった方々が一堂に会し、盛大に行われました。



佐藤理事長のあいさつ 活動の経緯と受賞の報告



余目一小「秋まつり」4年生の劇



これまでの活動の振り返り

祝宴のなかで、11月に余目一小「秋まつり」で4年生が発表した「17年前にタイムスリップ 余目一小めだかSOSの歴史」のビデオが上映されました。

取組み当初の子どもたちの想い、それを受け止める大人たちを熱演した子どもたちの様子を4年生担任の先生方からお話いただきました。いい劇にしようとして一生懸命取組めたのも、1年間の活動が充実していたからこそ。子どもたちの力は素晴らしい！それを引き出してくれた余目一小の先生方にも感謝です。

子どもたちの「地域のメダカを守りたい」との思いから始まった環境保全活動。本日集まった方々がそれを受け止めて、同じ目標に向かって取組むことができたからこそ、ここまで続けてこれたのだと思います。

環境保全のための活動は、かなりの労力を要します。メダカ保全池の設置→メダカの保護→安全安心なコメの生産→めだかの里米の販売→メダカライス純米酒の醸造…。

家根合地域の方々は、たくさんの人と関わりながら、自分たちが楽しめる取組みへとつないでいく力を持っています。

余目一小の子どもたちのやる気や笑顔に支えられて、来年もがんばろう！  
受賞を契機に、また地域が元気に頑張れそうです。



環境やまがた大賞の賞状

県として、引き続き、活動のPRや広報活動等を支援していきます。

特定非営利活動法人 家根合生態系保全活動センターの活動は、NN・REIKOで紹介しています。

(表彰式の模様は、NN・REIKO第362回環境やまがた大賞受賞でも紹介しました。)

詳しくは、下記にアクセス。

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/shonai/337046/kane1119.html>

～どんがら汁にして食べよう～



1月20日、大寒。



荒天が続いていた日本海。一昨日には、ようやく漁ができる“凧”となりました。  
庄内の冬を代表する魚「真ダラ」。寒の入りから節分までの「寒」の時期に獲れる真ダらを「寒ダラ」と呼び、どんがら汁でいただきます。

※「どんがら」とはアラのことで頭、内臓、骨、ヒレなどの総称



白子・肝臓(あぶらわた)がたっぷり6人前セット



地吹雪が吹き荒れるなか、こころも身体も温まる「どんがら汁」。  
各家庭こだわりの味付けもいろいろありますが、大鍋で煮たどんがら汁も味わい深いもの。  
1月15日の鶴岡市「日本海寒鱈まつり」を皮切りに、酒田市、遊佐町でも開催されます。

ぜひ、お出かけください。

～状況報告に基づき実施中～



農村計画課指導担当と事業担当の1月は、中間事務検査月間。  
補助事業の実施にあたっては、その年度の執行が適時、的確に行われているかを確認するため、12月末現在の執行状況を1月中旬までに報告することになっています。

当課で執行状況報告を受理したうえで、事業主体に赴き、工事や委託の契約状況、工事の実施状況などを確認するのが、中間事務検査です。



事務検査の状況

事業が完了する前に、改善点を見つけ指導できる、という意義もある中間事務検査。

1月11日から今月末まで続きます。

～七五三掛地区標識の点検～



さて、これは何でしょう。



県道たらのき代大綱線。写真中央は、七五三掛地区地すべり防止区域の標識です。

鶴岡市朝日地域にかげりの積雪があったため、夏に補修した標識の状況を確認してきました。



積雪深170cm(平成29年1月25日現在)

標識は雪に埋もれた状態でした。法面の雪が融ける時期に被害を受けやすいため、今後も定期的に点検します。

地すべり防止区域にとって、暖くなるこれからの時期が、最も注意を要します。

地下水の上昇を防ぐために設置している水抜きボーリングや集水井は、積雪により、冬期間の点検はできませんが、区域における積雪量や融雪の状況を観察することで、異常がないか点検、判断をしています。



春を待つ注蓮寺の七五三掛桜

### ～テーマ：高収益作物への転換～



1月27日(金)、庄内管内の土地改良区理事長と庄内総合支庁長との意見交換会が行われました。

平成25年度から始まった意見交換会は、年に1度の開催で、今回が4回目。

今回は、庄内管内において、ほ場整備要望が多い現状を踏まえて、新規ほ場整備事業を計画するうえで重要な課題となっている、高収益作物への転換にあたって、管内の現状や考えを話し合いました。



庄内管内の土地改良区は、水稻単作のところから砂丘畑を抱えるところまで、さまざま。それぞれの土地がら、販路、栽培技術などが異なるなかで、庄内統一しての取組みは難しいのが現状です。

改めて、県には農業振興課、農業技術普及課と連携した、営農支援が求められていることを実感しました。

各地域の営農ビジョンを再構築するためには、ほ場整備の技術だけでなく、地域の思いを引き出す技術も求められています。

山形県は「地域の元気づくり」を応援しています。

「元気な地域づくり支援プロジェクト事業」は、県の地域づくり担当者が、皆さんの地域にお伺いし、それぞれの地域に適した方法を提案しながら、さまざまな形で「地域の元気づくり」を応援する事業です。

興味のある皆さんは、農村計画課企画担当までお問い合わせください。

～2017冬号の配信が始まりました～



元気な農山漁村を作っていきたい、農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい・・・『農楽里norari』は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、既に参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する“職員手作り”の情報誌です。

1月31日、山形県HPに冬号がアップされました。

<http://www.pref.yamagata.jp/purpose/koho/kohoshi/6140017norari.html>



今回の特集は、ふゆの農業。

農業を営む上で冬期間の収入確保は重要な課題です。冬を乗り切るために頑張っている方々を特集しました。

庄内からは遊佐町小野曾「うるいの促成栽培」について。うるい栽培農家の荒木さんの話では、労力を要する作業はあるものの、首都圏の市場において品質的に高い評価を受けているとのこと。

ほかにも、やまがたの食のコーナーで「庄内豚」を取り上げています。ぜひご覧ください。



～心身ともに!?成長～



1月4日(水)から宇城地域振興局農林部農地整備課において、熊本県の災害復旧支援にあっていた当課 佐々木朗の派遣期間が満了し、吹雪のなか、庄内に帰ってきました。



復帰辞令交付



熊本での業務について

充実した1か月を過ごし、身体も想定以上に成長したとのこと。  
庄内でも緊張感をもって業務にあたります。

### ～緊急時の防災・減災対策～



庄内管内には、約180か所の農業用ため池があります。  
築造からかなりの年数が経過しているため池もあり、貯水機能が著しく低下している可能性があります。  
また、近年頻発している大規模地震やゲリラ豪雨などの自然災害によりため池が決壊し、被害が発生することが懸念されることから、防災・減災対策が重要となっています。  
県は、平成25年度、26年度にため池の一斉点検を行い、施設の現状を把握しました。その結果から、耐震性点検調査やため池ハザードマップ作成を実施しています。  
今年度は、4か所のため池でハザードマップを作成しました。  
ため池ごとに、近隣に住む方々、施設管理者を対象に説明会を実施しています。



ため池ハザードマップは、もしも大規模地震が発生し、ため池が決壊した場合どのくらいの被害になるのかを想定し、それを知っておくことにより、避難方法や経路などを事前に検討するために作成しているものです。

ハザードマップを活用して、皆さんの地域の“もしもの時”に備えましょう。

～鶴岡市温海 越沢集落～



鶴岡市越沢は、名勝「摩耶山」をはじめ、名水「郷清水」、美しい景観の「越沢の棚田」など豊かな自然に恵まれ、在来作物として注目されている「三角そば」やササマキ、とち餅、山菜、キノコなど自然の恵みを活かした食文化が受け継がれています。

今年度、自治会では地域おこし協力隊を含めた住民20名による「越沢活性化委員会」を立ち上げ、「自然、文化、住民がいきいきと心ふれあう、豊かで安心して暮らせる地域づくり」を目的に「越沢自治会活性化ビジョン(越沢のめざすべき将来像)」の策定に取り組んできました。



第4回活性化委員会 年齢に関わらず意見を出し合える“熱い”会議

ビジョンの策定にあたり、中学生以上の住民を対象にしたアンケート調査を実施し、問題や不安を把握するとともに、地域資源を再認識し、まとめあげてきました。

地域住民自ら創りだし、描いた「越沢自治会活性化ビジョン」。無理をしないで、できるところから…地域の方々の想いを消さないように、一步一步、歩み始めています。

県としては、地域が求めるタイミングで、支援できる体制をとっていきたいと考えています。

本日は、第4回活性化委員会。庄内総合支庁担当者3名も参加させていただき、皆さんの熱い思いを聞かせていただきました。

本日確認した活性化ビジョンは、今後自治会総会に諮られ、策定される予定です。

～農村環境保全指導員研修会及び意見交換会～



2月15日(水)、庄内管内の農村環境保全指導員と市町担当者を対象とした研修会及び意見交換会が行われました。

例年、農村環境保全指導員の活動を住民や行政に周知し、関係者とのネットワーク拡大を図るため、多面的機能支払交付金、中山間地域等直接支払との共催で研修を行ってきましたが、近年、農村環境保全指導員同士の交流の機会が少なくなっていたため、今年度は、活動の状況や実施にあたって苦労しているところなどをお話しいただく会として開催しました。



アンケート調査について県庁担当の説明



提出書類についての確認

最近の子どもたちは忙しく、イベントへの参加が負担になることもある、イベント開催にあたって、スタッフ(協力者)の確保が難しくなっている、生き物調査にあたって専門家(アドバイザー)の派遣窓口があるといい、などこれまでの実績を踏まえた、さまざまな意見をいただきました。

また、事務手続きにあたっての改善点も提案いただきましたので、今後県庁と検討を進めたいと考えています。



旧鶴岡 鈴木指導員



旧温海 五十嵐指導員



旧八幡 高橋指導員



三川町 菅原指導員



旧立川 小野寺指導員



遊佐町 若狭指導員

今年度の農村環境保全指導員の活動も残りわずか。

皆さんのもっているさまざまなスキルを補充し合い、活動の幅を広げる取組みができるよう、県でも情報収集と整理をしていきます。

～これまでの経験を次の世代へ～



2月23日(木)、庄内総合支庁農村計画課、農村整備課の職員を対象とした職場研修を行いました。



今回は、これまでの県職員生活を振り返って、若い世代へ引き継ぎたい技術や想いを伝える場を作ろうと企画したものです。



須藤農林技監



岩谷主任主査



進藤国営事業対策主幹



佐々木地域保全専門員

内容盛りだくさん。限られた時間で4名の講師からお話いただきました。

- 須藤農林技監:「土地改良法」一読の勧め。今の自分にできることを確実に行いつつ、さらなるチャレンジ精神を。失敗を恐れず、繰り返さない努力を。
- 岩谷主任主査:庄内砂丘地区農村災害対策整備事業の経過。豪雨年における水理解析による排水計画の検証。
- 進藤国営事業対策主幹:工事実施中に被災した不可抗力による損害への対処。過去の経験からの教訓。
- 佐々木地域保全専門員:熊本派遣の報告。大切畑ダム(ため池)の被災状況と査定。復旧工法検討の状況。

技術や想いを継承するために・・・

まずは、ひとりひとりの技術力向上、意識の向上から。

### ～今年の活動を振り返って～



2月24日、庄内町立余目第一小学校においてめだかの里米給食試食会が行われました。

本日のごはんは、4年生の皆さんと家根合地域の方々が5月に田植え、9月に稲刈り、自然乾燥しためだかの里米(品種:はえぬぎ)。11月22日にNPOから小学校に贈られ、本日の給食で提供されることになったものです。

試食会には、家根合地域を代表して5名の方々と当課から3名が参加して、4年生の皆さんと一緒に給食をいただきました。



いつもおいしい庄内米を食べていますが、自分たちが田植え稲刈り作業をしためだかの里米は、よりおいしかったようです。



今年の活動の振り返り

給食を食べながら、パネルを使って今年の活動を振り返りました。  
余目一小から、来年度も引き続き活動したい、との話がありました。

子どもたちの「地域のメダカを守りたい」という想いが受け継がれ、地域が元気になるために、今後も活動のPRや広報活動等を支援していきます。

特定非営利活動法人 家根合生態系保全活動センターの活動は、NN・REIKOで紹介しています。バックナンバーもチェック！

～農村環境保全指導員の活動状況⑤～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

2月26日(日)、旧鶴岡の鈴木正農村環境保全指導員が笹まきづくり体験会を行いました。

笹まきづくり体験会は、今回で3回目。三瀬地域の方々ほか19名が参加しました。

笹まきは、庄内の各地域で作られており、地域毎に特徴があります。三瀬地域でも昔からつくられてきました。地域に自生する笹の葉を使い、地域の山から出る薪で暖を取った後の灰汁をもち米に吸水させる、地域の産物だけで作ることができる地域伝統食品です。

今回は、笹を利用した中華ちまきにも挑戦しました。



鈴木農村環境保全指導員



笹まきの先生 灰汁の加減について



みんなでやってみよう



どうやって巻くの？どうやって結ぶの？

本日は、3名の先生方に教わりながら作っていただきましたが、地域内で作れる方はほんのわずかとのこと。このままでは、伝統食品笹まきが消滅してしまうかもしれません。今回は、幅広い世代から継承してほしいという思いから、企画されたものです。



きれいに巻けました



試食タイム 「いただきます」

最後に、事前に煮ておいた笹まき、巻いて30～40分蒸した中華ちまきをいただきました。

笹まきはプルプル、中華ちまきは味が染みてモチモチ。どちらもとてもおいしかったです。

1度の体験で習得するのは難しいことですが、地域の方々にコツを聞きながら作業するのも、楽しかったです。

伝統食品笹まき。味と技を引き継ぐためには、地域の方々とのコミュニケーションも大事な要素のように感じました。

県では、地域を元気にする活動を応援しています。



～災害復旧事業担当者研修会②～



3月3日(金)、庄内管内の市町、土地改良区の農地・農業用施設災害復旧事業担当者を対象とした研修会を開催しました。



災害発生時の対応について確認



災害申請演習 申請範囲はどこまで？

研修は今年度2回目。今年度受検した災害実地査定における反省点を踏まえ、申請にあたっての考え方を確認しました。



これから融雪期に入ります。

災害発生時にはどうしても慌ててしまうもの。冷静に落ち着いた対応をするためには、日頃から緊急対応の流れを頭に入れておくことが大切です。

対応にあたり、不明なところがありましたら、当課担当まで問合せください。

～ワークショップ運営の手法を学ぶ～



3月9日の午後から10日(金)夕方まで、ワークショップシナリオ作成研修が行われました。

中山間地域をはじめとする農山漁村における地域づくりでは、住民のやる気の醸成と合意形成を図る手段として、ワークショップの開催が効果的な手法のひとつとなっています。

山形県でもその手法の重要性に早くから着目し、地域の要請等に対して地域づくりワークショップ運営を支援してきました。



地域について考える(小野講師の講義)

今回の研修は、地域住民との話し合いの場を企画する方にとって、実践的なワークショップ運営のノウハウやプログラムの作成技術が習得できる内容となっています。



各々の意見を出し合いグループ内で共有→グループとしての考えを整理



ラウンドキャッチボール(聞き取り問いかけ訓練)グループ毎に活動実践プロセスを発表



プランナーが地域とともに準備する事柄を整理し、その工程も発表



事例地の実際の展開を解説

プランナーの役割をどのポイントでどう発揮していくのか。

参加者からは、地域の方々の想いを受け止めながら組み立てていくことの難しさを感じつつ、事例地の実際の展開に感動した、という感想もいただきました。

参加した皆さんの今後のご活躍を期待しています。

今年もおいしくできました

## ～メダカライス純米酒 新酒お披露目会～



3月10日(金)、メダカライス純米酒の新酒お披露目会がやまと桜 母屋にて行われました。

NPO家根合生態系保全活動センター 佐藤理事長から、昨年11月に「環境やまがた大賞」を受賞し、これまでの活動が認められたことが、地域にとって励みになっている、とあいさつがありました。

来年度の活動に弾みをつける、和やかなお披露目会となりました。



社長から今年の仕上がりについて



お披露目会 限定の生酒



家根合地域の環境保全活動から大人の楽しみとして始まった純米酒づくりは今年で11年目。食事に合う、きりっとした味わいに仕上がりました。

「メダカライス純米酒」は、JR余目駅、庄内町新産業創造館クラッセ「なんでもバザールあってば」などで販売されています。ぜひ、お試しください。

～これまでの経験を次の世代へ～



2月23日(木)の研修に引き続き、庄内総合支庁農村計画課、農村整備課の職員を対象とした職場研修の3回目。これまでの県職員生活を振り返って、若い世代へ引き継ぎたい技術や想いを伝える場を作ろうと企画した研修としては第2弾となりました。

今回は、今野川土地改良区が管理する上野新田ため池において現地研修を行いました。



ため池堤体で概要を説明



富士村農村整備課長

工事発注後に現場における課題解決のために、仮設計画の練り直しを行うなど、苦労した経験についてお話いただきました。

続いて、安全運転技術の継承として、自動車の日常点検の方法を実践いただきました。



三浦技能長



点検箇所と方法の説明

技術や想いを継承するために……。  
まずは、ひとりひとりの技術力向上、意識の向上から。

～WSシナリオ研修の振り返り～



3月9日の午後から10日(金)夕方まで実施した、ワークショップシナリオ作成研修のドキュメントが完成しました。



“ドキュメント”とは、今回の研修の成果をまとめたものです。

地域づくり技術者には、

- ①シナリオ作りプログラム作りの能力
- ②運営する能力(創造の機会が気持ちよくできている。たとえの活用で応えやすい質問を投げかけることができる)
- ③成果報告をまとめる能力 が求められます。

ワークショップなどで参加者の意思統一を図っても、時間が経って忘れてしまったのでは、もったいありません。

ドキュメントを参加者に返し、共有することが重要です。

参加した方々には、昨日郵送等によりお送りしました。

ドキュメントを読み返していただき、研修を振り返っていただければ幸いです。

参加した皆さんの今後のご活躍を期待しています。

28年度も本日で終了です。

来年度も引き続き、NN.REIKOをよろしくお願い致します。